

協働的な学びとリフレクションを 促す評価ファシリテーション

研究員 清水潤子、源由理子、
新藤健太、大山早紀子、小野田由実子



評価は、評価「される」というように受動
態で語られることが多く、苦手意識を持つ
人が多い。しかし、評価の英語表記である
‘evaluation’はラテン語の接頭句である
ex-（引き出すこと）とvalue（価値）を組
み合わせた言葉であり、評価対象の価値や
メリットを引き出すことを意味しており、
多様な価値軸を内包するその営みは、実は
奥深い。

社会課題解決や価値創造の市民活動領域
においては、資金提供者等へのアカウント
ビリティだけでなく、受益者のための成果
創出に向けた改善や事業者の学びを目的と
する評価にも注目が集まっている。評価、中
でもプログラム評価は、課題の特定や成果
目標の設定、そしてそれに根ざしたデザイ
ンや計画を作り、目標が活動によって達成
されたかの確認を行うという一連のマネジ
メントプロセスに相まって行われるもので
ある。近年協働型での課題解決の取り組み
も増える中で、目的を共有するプロセスに
おいて、課題やゴールの共通理解を深める
必要があり、集合的な学びを深めるために
ファシリテーションを効果的に評価プロセ
スに導入していく意義が先行研究でも指摘
されている。しかし、これまでその具体的手
法に関する研究は乏しかった。

世界の幸せをカタチにする。
Creating Peace & Happiness for the World



Musashino University

そのため、本研究では現場実践と評価実
践を仲介し、多様なステークホルダーと共
に対話型で評価プロセスを推進する存在を
「評価ファシリテーター」と位置づけ、評価
ファシリテーションの実態を整理・構造化
し、そのモデルを構築することを試みた。

具体的には、先行研究や評価ファシリテ
ーションの場の観察、評価ファシリテーシ
ョン実践者の経験をもとに『プログラム評
価における評価ファシリテーターの役割と
スキル（仮）Ver.1』という評価ファシリテ
ーションのガイドを作成し、有用性を確か
めるための試行的ワークショップを2023年
6月に実施した。ワークショップは主に福祉
領域や市民活動領域における実務家を対象
として行った。そして、その効果について同
ワークショップ参加者に対して2024年1月
にフォーカスグループディスカッションを
行い、フィードバックをもとにガイドの改
訂を進めている。

日本の大学では欧米のように「評価学」が
ディシプリンとしても未確立であり、その
ようなことから、「評価」を体系的に学ぶ
機会が少ない。しかし今回、あらゆる実践の
倫理的基盤に通底する評価研究を、学際的
に進める機会が得られたことは幸いである。
本研究が、価値創出に貢献する評価ファシ
リテーターの育成に貢献し、実践現場にお
ける評価活動の敷居を下げっていくことに寄
与することができるよう、完成したガイド
の公表などを検討していきたい。

Musashino University Creating Happiness Incubation

武蔵野大学しあわせ研究所

電話：03-5530-7730

東京都江東区有明3-3-3

メール：mhi@musashino-u.ac.jp